

第124期 報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

四輪車用

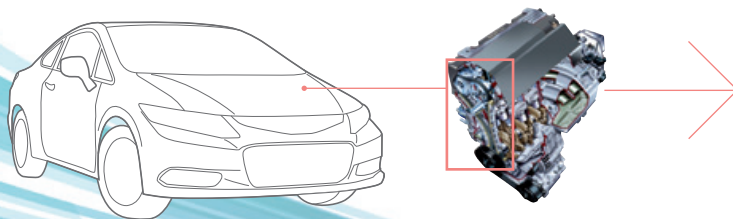
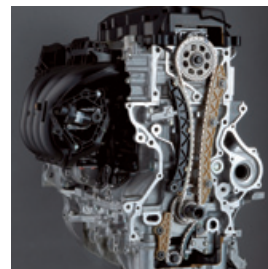
当社独自の特殊表面処理技術で、優れた耐摩耗性・疲れ強さ・高い静音性を実現した四輪車エンジン内チェーン。

[主な納入先] HONDA、TOYOTA、DAIHATSU、MAZDA、SUBARU、SUZUKI、HYUNDAI、第一汽車

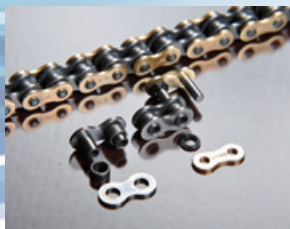
■ タイミングチェーン



■ チェーンシステム



■ ドライブチェーン



■ カムチェーン



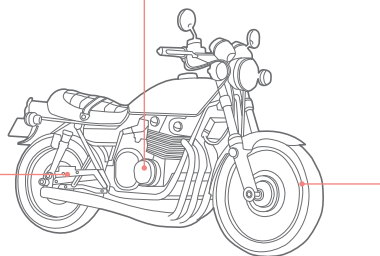
D.I.D

モノづくりへの情熱で世界

■ 鉄リム



■ アルミリム



二輪車用

[D.I.D] ブランドの高い信頼性と実績により、世界No.1の評価をいただく二輪車用チェーンは、多くの完成車メーカーに純正品として採用いただいております。

[主な納入先] HONDA、YAMAHA、SUZUKI、KAWASAKI、BMW、DUCATI、HARLEY-DAVIDSON

高度化・多様化するニーズに、コンサルティング能力と開発力、固有技術で、お客様の環境に合わせたソリューションを提供しています。

動力伝動・搬送用チェーン



[主な使用用途]

- ・立体駐車場
- ・フォークリフト
- ・建設機械・農業機械
- ・食品加工機械
- ・印刷機械・包装機械

産業機械用チェーン (静音チェーン)

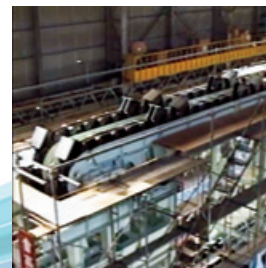


コンベヤシステム

粉粒体・環境関連設備向け エプロンバケットコンベヤ



製鉄関連設備向け コイルコンベヤ



事業領域

に感動をお届けするヒューマンテクノロジー

私たちは創業以来、「伝える」「運ぶ」をテーマに、世界のニーズを満たす技術の徹底追求を行い、高性能、高品質な製品をお届けしてきました。

その根底には、人にふれあう技術、人とともに伸びる技術という思想が貫かれています。

ものづくりは人づくり、そして情熱。私たち大同工業グループは、絶えず人と技術を原点に置き、ひたむきに「D.I.D」ブランドへの期待と信頼にお応えしています。

いす式階段昇降機 (楽ちん号)



車いす用階段昇降機 (JDエスカル)



福祉機器

豊かで快適な福祉社会を実現するため、使う人の立場に立ったユニバーサルデザインに基づく福祉機器の開発を通じて、バリアフリー社会に貢献しています。



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

第124期事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の営業が終了いたしましたので、報告書をお届けし、ご報告申し上げます。

平成29年6月

代表取締役社長 新家 康三

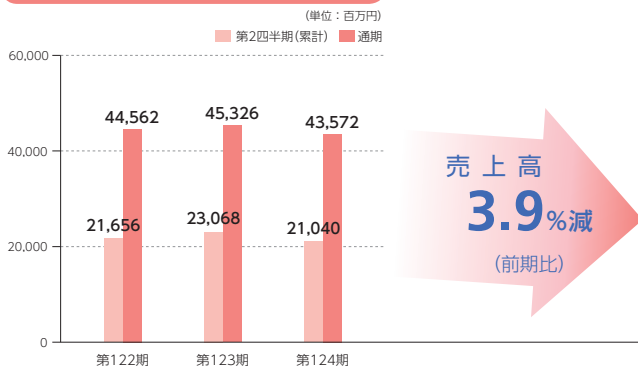
事業の経過及び成果

当期における当社グループを取り巻く環境は、海外においては、個人消費や雇用改善を背景とした米国経済の改善が続く、欧州や中国においても景気回復の動きがみられるものの、米国新政権の政策動向や英国のEU離脱問題等、先行き不透明な状況が続きました。国内においては、政府の金融・財政政策に加えて、米国大統領選以降の円安の進

行により、緩やかな回復基調が続きました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、上期において熊本地震や円高の影響を受けたものの、北米や欧州市場において付加価値の高いチェーンの受注が好調に推移したことに加え、国内・海外の生産拠点において原価管理の徹底を図る等収益の改善に努めました。

売上高



営業利益



その結果、当期の連結売上高は435億72百万円（前期比3.9%減）、連結営業利益は25億78百万円（前期比9.1%減）、連結経常利益は32億79百万円（前期比41.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は18億14百万円（前期比37.8%増）となりました。

■ 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、米国新政権による今後の政策や欧州のEU離脱をめぐる動向、アジアにおける地政学的リスク等、海外情勢の不確実性の影響等が懸念され、

引き続き予断を許さない状況が続くと予想されます。

本年、当社は『たゆまぬ挑戦で未来を切り拓く』をスローガンとする第10次中期経営計画（2015～2017年）の最終年度を迎えます。今一度、ものづくり企業としての原点に立ち返り、事業領域・技術領域の拡大を図るとともに、アジア二輪市場や北米四輪市場など成長市場・成長分野の取り組みを行ってまいります。また、多様な人財を活用し次世代を担う人財を育成するため働きやすい職場環境を整備し、会社として発展を続けてまいります。

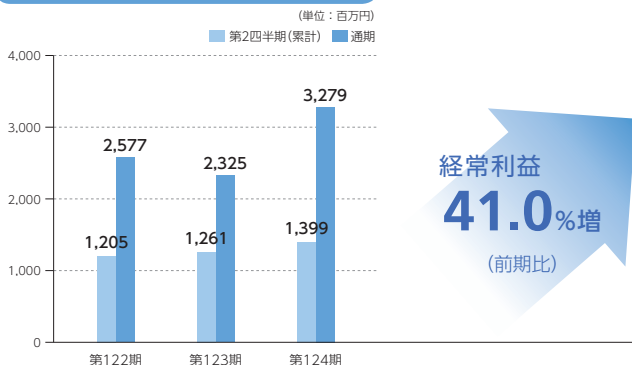
株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■ 第125期(平成30年3月期)連結業績予想

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 |
|-----------|--------|-------|-------|---------------------|
| 第2四半期（累計） | 22,800 | 1,300 | 1,400 | 900 |
| 通期 | 46,900 | 2,800 | 3,000 | 1,900 |

経常利益



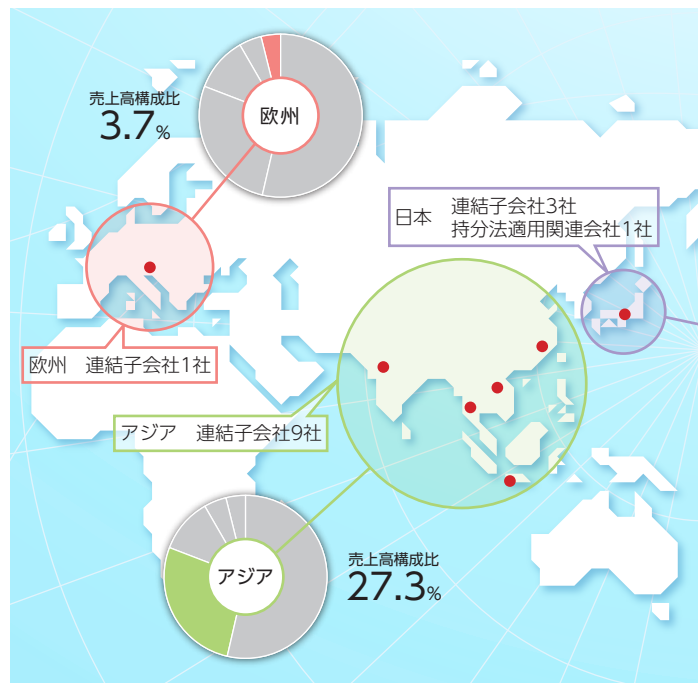
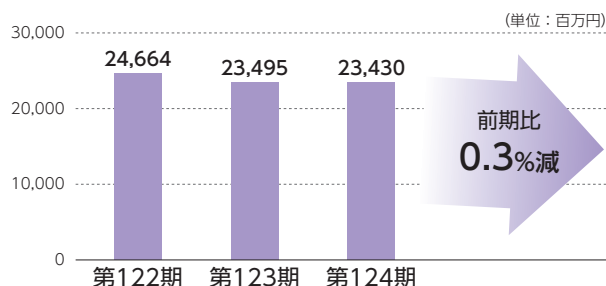
親会社株主に帰属する当期純利益



所在地別セグメント（当社及び連結子会社の属する国または地域を基準としたもの）

● 日本

熊本地震やアセアン諸国での干ばつにより上期に影響を受けた完成車メーカー向けの受注が第3四半期以降回復し、また第4四半期において二輪車用完成車メーカー向けのアルミリム等の受注が好調に推移したものの、第2四半期までの受注減少分や第3四半期までの為替の円高の影響等により、売上高は234億30百万円となりました。



● ご参考 ●

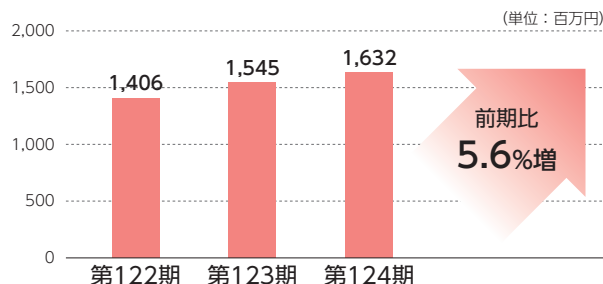
仕向地別セグメント

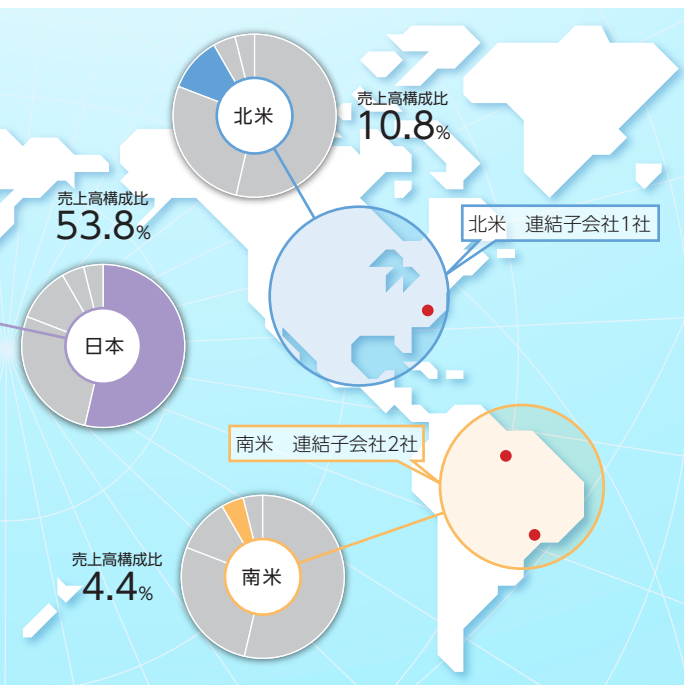
(顧客の属する国または地域を基準としたもの)

| | 売上高 (百万円) | 構成比 (%) | 前期比 |
|-----|-----------|---------|-------|
| 日本 | 20,975 | 48.1 | 2.1%増 |
| アジア | 13,016 | 29.9 | 1.5%減 |
| 北米 | 4,558 | 10.5 | 0.2%増 |
| 欧州 | 2,396 | 5.5 | ±0% |
| 南米 | 2,296 | 5.3 | 0.8%減 |
| その他 | 329 | 0.7 | ±0% |

● 欧州

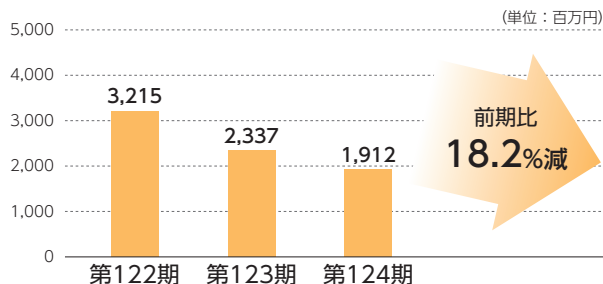
為替の円高の影響を受けたものの、二輪車用完成車メーカー向け及び補修市場向けともに受注が好調に推移したことから、売上高は16億32百万円となりました。





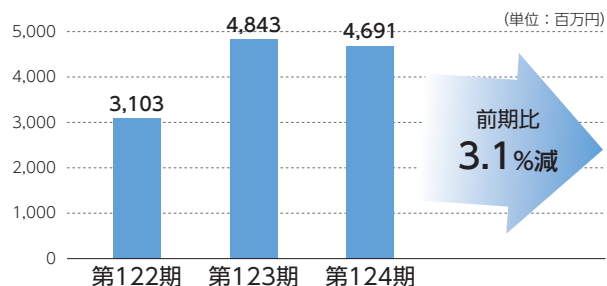
● 南 米

二輪車用チェーンの補修市場向けの受注が好調に推移したものの、為替の円高の影響を受けたことから、売上高は19億12百万円となりました。



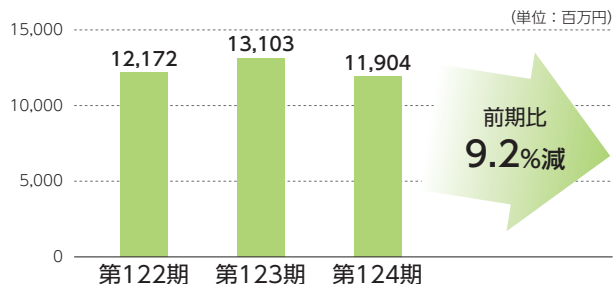
● 北 米

四輪車用チェーンにおいて完成車メーカー向けの受注が好調に推移したものの、為替の円高の影響を受けたことから、売上高は46億91百万円となりました。



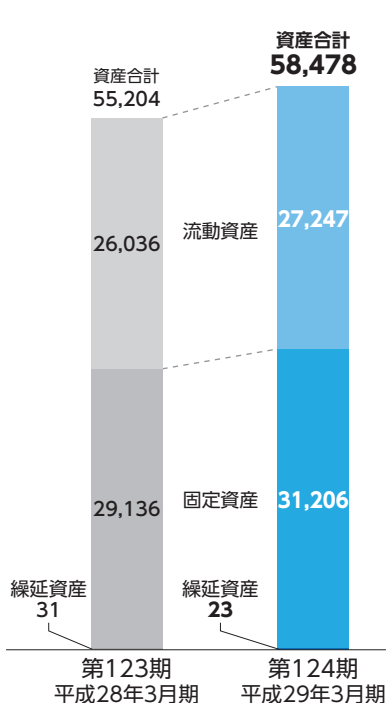
● アジア

アセアン諸国において二輪車用チェーンの受注が完成車メーカー向け及び補修市場向けともに好調に推移し、中国において搬送関連設備の受注が好調に推移したものの、タイの搬送関連設備の受注が低調に推移するとともに、為替の円高の影響を受けたことから、売上高は119億4百万円となりました。



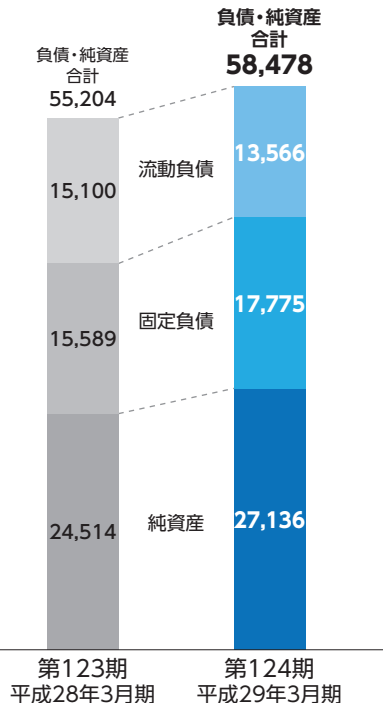
資産の部

単位：百万円



負債及び純資産の部

単位：百万円

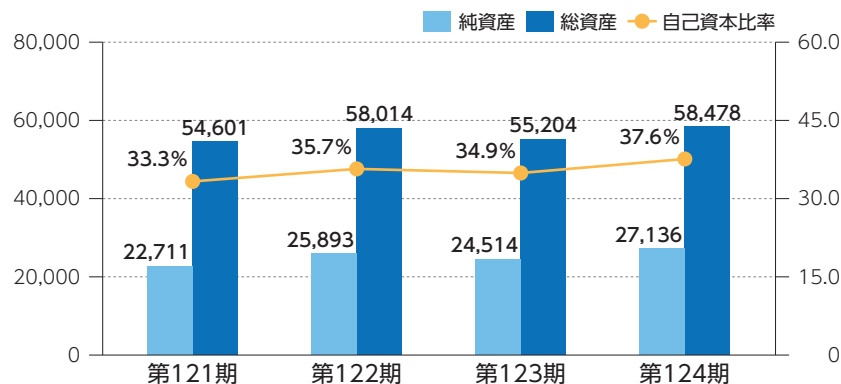


ポイント解説

総資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、投資有価証券が増加したことなどにより、前期末と比べ32億74百万円増加しました。負債につきましては、繰延税金負債が増加したことなどにより、前期末と比べ6億51百万円増加しました。純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前期末と比べ26億22百万円増加しました。

純資産・総資産・自己資本比率

単位：百万円

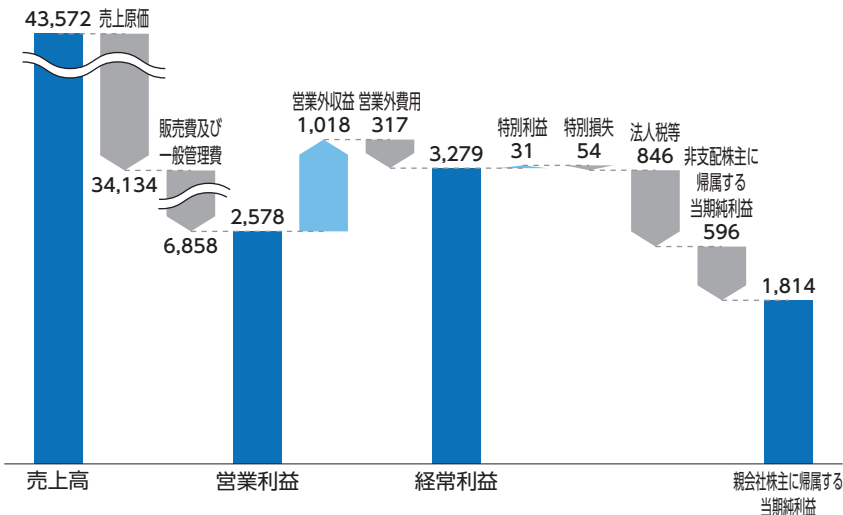


ポイント解説

自己資本比率は、借入金、繰延税金負債の増加により負債が増加したものの、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加などによる純資産の増加により、前期末と比べ2.7ポイント増加の37.6%となりました。

● 損益の状況 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

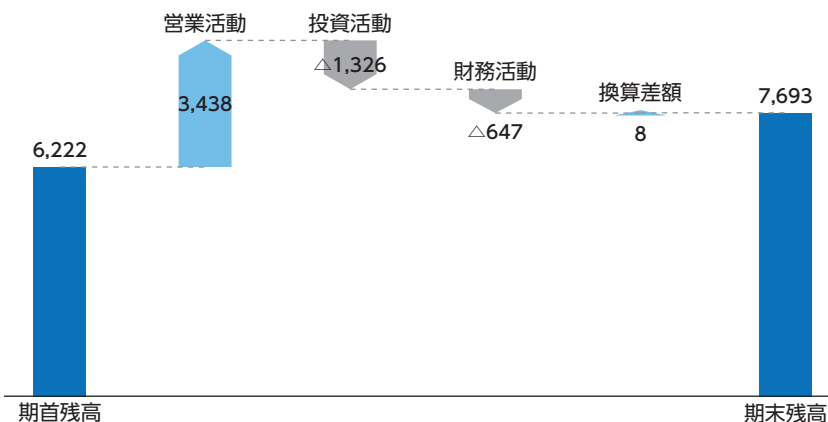
売上面では、北米や欧州において付加価値の高いチェーンの受注が好調に推移しましたが、上期において熊本地震や円高の影響を受けた結果、前期を下回りました。利益面では、国内・海外の生産拠点において原価管理の徹底を図る等の収益の改善に努めたことに加え、前期計上の為替差損が、当期においては為替差益の計上となったことなどにより、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、前期を上回りました。

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 |
|----------------|--------|-------|-------|-----------------|
| 第124期 平成29年3月期 | 43,572 | 2,578 | 3,279 | 1,814 |
| 第123期 平成28年3月期 | 45,326 | 2,835 | 2,325 | 1,316 |

● キャッシュ・フローの状況 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益、減価償却費を計上し、退職給付に係る負債が減少、売上債権及びたな卸資産が増加した結果、34億38百万円の獲得となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入や有形固定資産の取得による支出等により、13億26百万円の使用、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入による収入や配当金の支払などにより、6億47百万円の使用となりました。

北米においてチェーン一貫生産を開始



▲DCA工場



▲一貫生産オープニングセレモニー

当社グループは巨大な北米四輪車市場への本格参入を実現すべく、2014年7月に当社の北米拠点であるDAIDO CORPORATION OF AMERICA（以下、DCA）に、四輪車用チェーンの生産工場を建設し、新設した組立ラインにおいて日本から輸入した部品を用いた組立生産を行っていましたが、新たにプレス機、AT炉、可傾式研磨機といった一貫生産設備の導入を進め、2017年4月より材料調達から部品加工、組立に至るまでの全工程を現地で行う一貫生産へと移行する運びとなりました。

DCAでは今後、地産地消の考え方のもと、お客様のニーズを的確に捉え、お客様に製品をタイムリーかつ安定的に提供できる体制を構築してまいります。

また、当社グループにおいても、旺盛な消費力をみせる北米の四輪車市場において、DCAが北米の一大生産拠点として、更なる成長・飛躍ができるよう総力を挙げてバックアップしてまいります。

DAIDO CORPORATION OF AMERICA工場の概要

- (1) 所在地： 米国テネシー州ポートランド
- (2) 工場延床面積： 8,250㎡
- (3) 従業員： 85名（平成29年3月）
- (4) 投資額： 約700万米ドル※

※ 一貫生産体制の構築に伴う設備投資額

株式会社D.I.Dの吸収合併について

当社の100%出資国内子会社である株式会社D.I.Dにつきまして、当社グループの経営資本の集中を目的として、2018年4月1日をもって当社が吸収合併することを、2017年6月5日開催の当社取締役会で決議しました。詳細は当社ホームページ掲載のプレスリリースにてご確認いただけます。

2016年7月

アジア営業統括拠点（バンコク）を開所

タイの首都バンコクの入口にある「バンナー」地区に、アジア二輪車用チェーン市場への更なる拡販を実現するための戦略的営業拠点を開設しました。アジアのハブ空港であるスワンナプーム国際空港から30分という利便性を最大限に活用し、この拠点を起点としてアジア各国への更なる拡販を実現してまいります。



▲アジア営業統括拠点



▲ASEAN諸国における当社の拠点

2017年5月

DID MALAYSIA SDN. BHD (マレーシア現地法人) を設立

マレーシアにおける二輪車用チェーン市場でのシェア拡大を実現するため、同国に新たに現地法人を設立しました。本現地法人は9カ国目の当社海外拠点となります。

現在、現地での活動に必要な許認可等の手続きを進めており、7月より本格的に営業活動を開始する予定です。

2016年
7月

2016年
8月

2017年
5月

2017年
12月

2016年8月

DAIDO JAKARTA OFFICE (ジャカルタ) を開所

インドネシアの首都ジャカルタの中心部に、インドネシア二輪車用チェーン市場でのシェア拡大を実現するための戦略的営業拠点を開設しました。インドネシアの中心地で最新の市場動向を探り、様々なニーズや変化に対して、よりきめ細かく且つ迅速に対応することで、インドネシアでの更なる拡販を実現してまいります。



▲DAIDO JAKARTA OFFICE

2017年12月 (予定)

ベトナム子会社において二輪車用チェーンの生産を開始

当社グループは、2010年9月にベトナムにおいて販売会社としてD.I.D VIETNAM CO., LTD.を設立し、同国における旺盛な二輪車用部品の需要の取り込みを図ってまいりましたが、同社にて生産工場を立ち上げ、二輪車用チェーンの組立生産を開始することで、ベトナムの二輪車メーカー各社への品質・コスト・納入の一貫サービスを提供する体制を構築し、ビジネス展開をさらに加速します。



▲D.I.D VIETNAM CO., LTD.工場外観 (予定)

会社の概況 (平成29年3月31日現在)

商号：大同工業株式会社

設立年月日：昭和8年5月25日

資本金：27億2,637万円

従業員：612名（個別） 2,122名（連結）

(注) 上記従業員数は就業人員であり、臨時雇用者（定年後再雇用社員、派遣社員等）は含んでおりません。

事業所 (平成29年3月31日現在)

本社・本社工場：石川県加賀市熊坂町イ197番地

福田工場：石川県加賀市大聖寺下福田町ソ20

動橋工場：石川県加賀市動橋町中22-1

東京支社：東京都中央区日本橋人形町3-5-4 (ユニゾ人形町三丁目ビル)

大阪営業所：大阪市中央区南船場2-12-12 (新家ビル)

名古屋営業所：名古屋市中村区名駅南4-9-7

浜松営業所：浜松市北区三方原町1130-2

熊本営業所：熊本県菊池市旭志川辺1074-1

グローバルネットワーク (平成29年6月27日現在)

国内ネットワーク

- 株式会社D.I.D
- 株式会社大同ゼネラルサービス
- 株式会社大同テクノ
- ガイド建設株式会社
- 新星工業株式会社
- 株式会社月星製作所
- 株式会社和泉商行

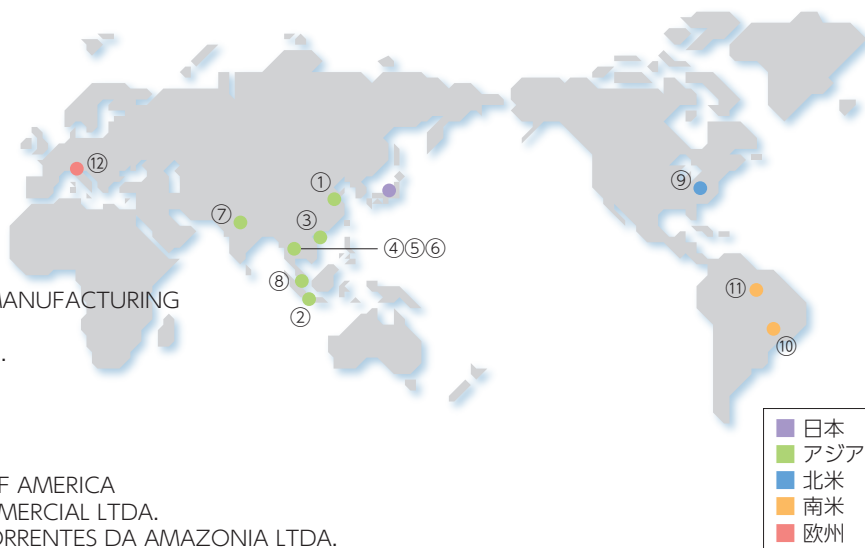
海外ネットワーク

- 中国 ① 大同鏈条（常熟）有限公司
- インドネシア ② P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING
- ベトナム ③ D.I.D VIETNAM CO., LTD.
- タイ ④ DAIDO SITTIPOL CO., LTD.
- タイ ⑤ D.I.D ASIA CO., LTD.
- タイ ⑥ INTERFACE グループ (3社)
- インド ⑦ DAIDO INDIA PVT. LTD.
- マレーシア ⑧ DID MALAYSIA SDN. BHD.
- アメリカ ⑨ DAIDO CORPORATION OF AMERICA
- ブラジル ⑩ DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.
- ブラジル ⑪ DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA.
- イタリア ⑫ DID EUROPE S.R.L.

会社役員の内訳 (平成29年6月27日現在)

| 会社における地位 | 氏名 |
|----------|------|
| 代表取締役社長 | 新家康三 |
| 代表取締役副社長 | 新家啓史 |
| 専務取締役 | 立田康行 |
| 常務取締役 | 菊知克幸 |
| 常務取締役 | 清水俊弘 |
| 取締役 | 澤保 |
| 取締役 | 棚橋健一 |
| 常勤監査役 | 福田治 |
| 監査役 | 笠松靖男 |
| 監査役 | 東森正則 |
| 監査役 | 廣田信也 |

- (注) 1. 取締役澤保氏、棚橋健一氏は社外取締役であります。
 2. 監査役笠松靖男氏、東森正則氏、廣田信也氏は社外監査役であります。
 3. 当社は、澤保氏、棚橋健一氏、廣田信也氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届出ております。



株式の状況

発行可能株式総数：160,000,000株

発行済株式総数：47,171,006株（自己株式53,965株含む）

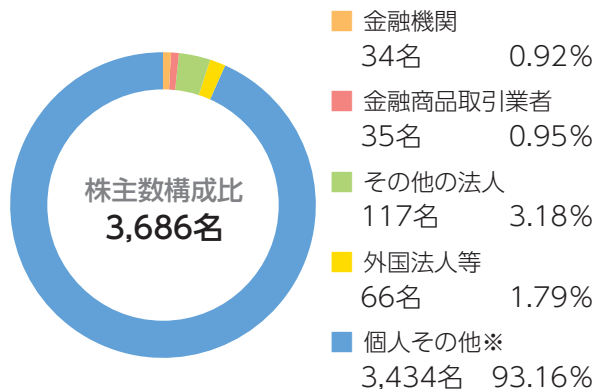
株主数：3,686名

大株主（上位10名）

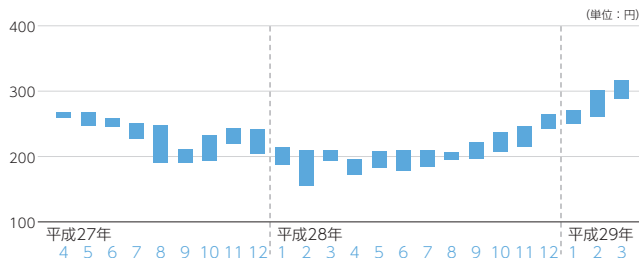
| 株主氏名及び名称 | 持株数 | 持株比率 |
|---------------------------|---------|-------|
| 株式会社 飯田 | 2,368千株 | 5.03% |
| 株式会社 北國銀行 | 2,281 | 4.84 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,861 | 3.95 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,512 | 3.21 |
| 日本生命保険相互会社 | 1,376 | 2.92 |
| 加賀商工有限会社 | 1,313 | 2.79 |
| 大同生命保険株式会社 | 1,298 | 2.75 |
| 株式会社 みずほ銀行 | 1,291 | 2.74 |
| 株式会社 三菱東京UFJ銀行 | 1,291 | 2.74 |
| 新家 萬里子 | 1,287 | 2.73 |

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

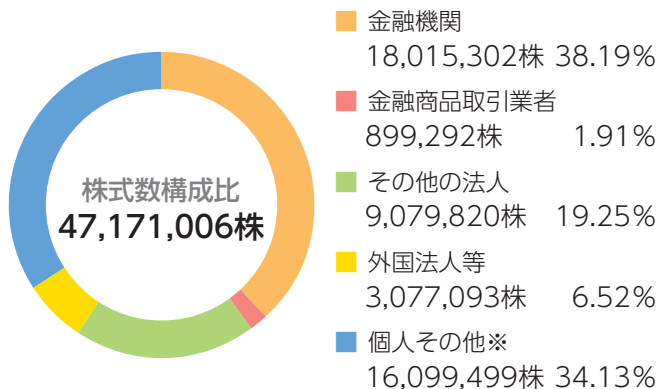
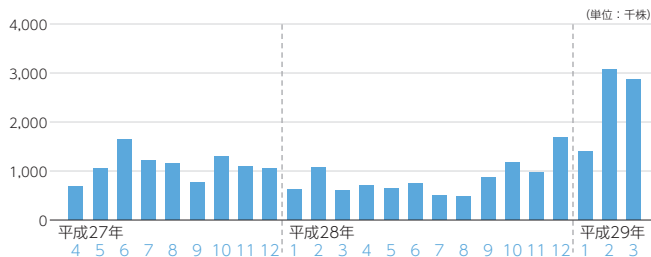
株式分布状況



株価（高値・安値）の推移



出来高の推移



※ 個人その他には、政府・地方公共団体及び自己名義株式を含む。

単元株式数の変更及び株式併合のお知らせ

当社は、東京証券取引所に上場する会社として、全国証券取引所が発表した、「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を尊重し、当社株式の売買単位（単元株式数）を平成29年10月1日より現在の1,000株から100株に変更するとともに、当社株式について中長期的な株価変動を勘案しつつ、投資単位を適切な水準に調整することを目的として、株式併合（5株を1株に併合）を実施いたします。

株式併合後の株主様の所有株式数は、平成29年9月30日（実質上平成29年9月29日）の最終の株主名簿に記録された所有株式数に5分の1を乗じた数（1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てます。）となります。また、議決権数は、株式併合後の所有株式数100株につき1個となります。具体的には、単元株式数の変更及び株式併合の効力発生日前後で、所有株式数及び議決権は次のとおりになります。

| 例 | 効力発生前 | | | 効力発生後 | | |
|---|--------|-------|---|--------|-------|------|
| | 所有株式数 | 議決権個数 | | 所有株式数 | 議決権個数 | 端数株式 |
| 1 | 1,000株 | 1個 | ➔ | 200株 | 2個 | なし |
| 2 | 5,000株 | 5個 | | 1,000株 | 10個 | なし |
| 3 | 1,678株 | 1個 | | 335株 | 3個 | 0.6株 |
| 4 | 500株 | 0個 | | 100株 | 1個 | なし |
| 5 | 4株 | 0個 | | 0株 | 0個 | 0.8株 |

- 例1、例2及び例4の株主様は、特段のお手続きはございません。
- 例3の効力発生後において生じる単元未満株式（35株）につきましては、従前と同様に、ご希望により単元未満株式買取制度がご利用いただけます。なお、当社にかかる単元未満株式の買取手数料はございません。（無料）
- 例3及び例5の効力発生後において生じる端数株式につきましては、会社法第235条に基づきすべての端数株式を当社が一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主様に対して端数の割合に応じて分配いたします。このお支払代金（端数株式処分代金）は平成29年11月中旬頃お送りすることを予定しております。
- 例4の株主様は、新たに議決権を有することとなります。
- 例5の株主様は、株式併合によりすべての所有株式が端数株式になり株主としての地位を失うこととなります。何卒ご理解を賜りたいと存じます。

【当社の株主名簿管理人】

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電 話 ☎ 0120-782-031
受付時間 9:00 ~ 17:00（土・日・祝祭日を除く）

株式のご案内

| | | | |
|--------------------------|--|-------|-------|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで | | |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 | | |
| 単元株式数 | 1,000株*1 | | |
| 基準日 | 定時株主総会 | 3月31日 | |
| | 剰余金の配当 | 期末 | 3月31日 |
| | | 中間 | 9月30日 |
| | そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 | | |
| 株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関) | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 | | |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 | | |
| (郵便物送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 | | |
| (電話照会先) | ☎ 0120-782-031 | | |
| (インターネットHP URL) | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html | | |
| 公告の方法 | 当社ホームページに掲載(電子公告) http://www.did-daido.co.jp/jp/index.html | | |
| 上場取引所 | 東京証券取引所市場第一部 | | |
| 証券コード | 6373 | | |

お知らせ (株式事務のご案内)

■ 各種手続き・ご照会について

株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなります。住所、氏名の後変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求などのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は、口座を開設されている証券会社までご連絡ください。

■ 特別口座について

株券電子化の実施までに証券保管振替制度をご利用されなかった株式につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に開設された特別口座に記録されております。特別口座で管理されている株式についてのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は特別口座管理機関である三井住友信託銀行までご連絡ください。なお、三井住友信託銀行の全国本支店でもお取次いたします。

■ 単元未満株式の買取制度について

当社では証券市場における取引単位を1単元(1,000株*1)とさせていただいておりますので、単元未満株式(1から999株*2)の株式は証券市場でのお取引ができません。当社単元未満株式の買い取りをご希望される株主様は、お取引のある証券会社(特別口座が開設されている株主様は、三井住友信託銀行)までお問い合わせください。なお、買取請求に関する手数料は無料となっております。

■ 未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。

※1 平成29年10月1日以降は100株

※2 平成29年10月1日以降は99株

ホームページのご案内

<http://www.did-daido.co.jp/>



投資家の皆様に財務情報や最新トピックスをご提供しております。



より詳細な財務情報をご希望の方は、
当社ホームページ [投資家向け情報] をご覧ください。

大同工業 投資家向け情報

検索

<http://www.did-daido.co.jp/jp/ir/index.html>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6373

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

